

# 病院だより



斜里町国民健康保険病院  
広報誌 [令和3年5月発行]

## INDEX

- P2 特集 訪問診療10周年  
外来の診療体制が変わりました  
外科外来の場所が変わりました
- P4 産婦人科外来  
担当医師からみなさんへ  
町民の健康を願って 近藤 統
- P6 新入職員紹介・退職者紹介  
医療従事者の新型コロナ予防接種が始まりました

[表紙] 菊一院長診察室にて

## 新院長ごあいさつ

院長 菊一 雅弘

このたび合地前院長より院長承継の命を賜りました菊一雅弘でございます。

大好きな「北の大地」しかも世界自然遺産「知床」を抱える斜里町で唯一の病院の院長を拝命するのは、この上なく光栄に存じます。同時に、地域と共にあり続けられる“なくてはならない病院”とはいかなる要件を満たすべきか、現在ほど問われる状況に当職の重責を感じずにはられません。

合地先生は地域医療の主役は斜里町民であるということに常に念頭に置き、町民の方々が喜んでいただける医療を提供することを責務としてまいりました。訪問診療の開始や健康講座の開催など、病院で待つだけでなく出かけていく医療を、医者だけではなく多職種で支えていく医療を実践してきました。この地域医療の基本方針を堅持することは、私に求められる最小限の使命であります。

一方、この15年間で斜里町の人口は約1400人減少し1万2千人を切りました。高齢化率は34%を超えています。斜里町国民健康保険病院で出産分娩が出来なくなつて19年、外科手術が途絶え5年が経過しています。

さらに団塊の世代が75才になり医療・介護需要が最大化するとされる医療における2025年問題が間近に迫つてまいりました。このような状況の中、地域医療構想に沿い急性期から回復期、慢性期まで患者さんが状態に見合った病床で、状態にふさわしい、より良質な医療サービスを受けられる効果的な体制をつくる必要があります。さらに町財政は逼迫し、医療の機能に見合った資源の効率的な配置が従来にも増して求められています。最後まで安心して斜里町で暮らせるように、地域包括ケアシステムの中で求められる医療機能に限られた医療資源を活用しなければなりません。

私たちが「ふるさと」のかけがえのなさを痛感した東日本大震災から十年が経過しました。日頃から地域の皆様の健康を守り、災害時には生命を守るよう備えます。地域と共にある病院であること。医師をはじめ、全スタッフがー丸となり皆様の健康と生命を守ること。地域特性に沿った医療、介護、福祉の連携を図り、斜里町独自の実践を深めていきたいと思っておりますので、今後ともこれまでと変わらぬ皆様方の温かいご支援を賜りますようお願いしてご挨拶とさせていただきます。

# 特集

# 訪問診療の10年

平成22年10月、試行錯誤しながら8名の患者さんから始めた訪問診療も早10年が経過しました。この10年を簡単ですが振り返ってみたいと思います。



畑中社会福祉士

奈良看護師

美馬看護師

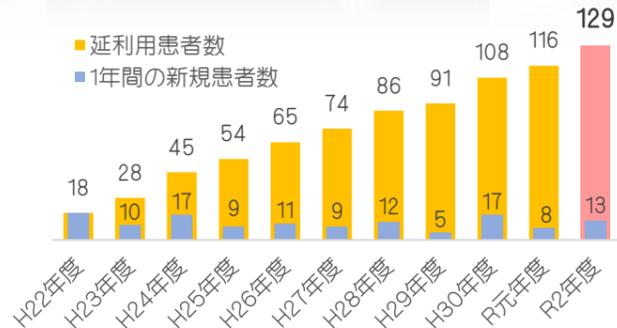
合地前院長

土田医師



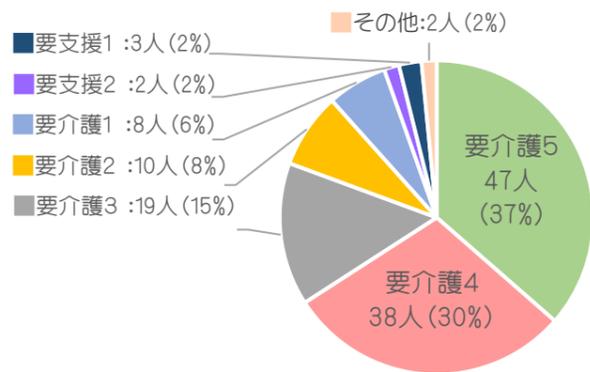
## 1. 訪問診療延利用患者数

訪問診療を利用された患者さんは延べ129名です。毎年10人前後の患者さんに新たに希望して頂き、現在は25名の患者さんの訪問診療を実施しています。



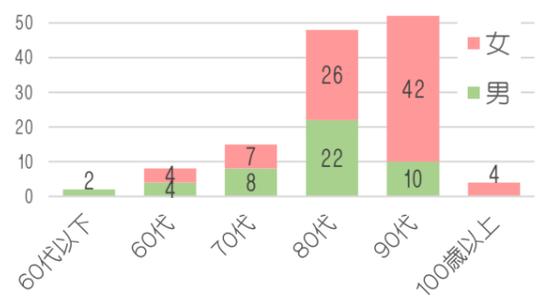
## 2. 開始時の介護度

開始時の介護度は、要介護4、要介護5がほとんどで70%近くを占めています。



## 3. 開始時の年齢と性別

開始時の年齢は当然のごとく80歳以上が大半を占め、平均寿命を反映し女性に多い傾向が見られます。訪問地域は斜里町が大半ですが清里町にも及んでいます。

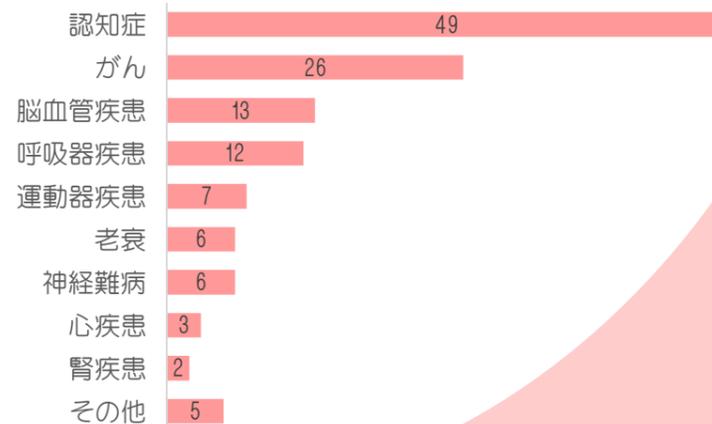


## 4. 開始時の主疾患名

訪問診療開始時の主疾患名は認知症が多くを占めていますが、多くの疾患が複雑に絡み合っている病態が現実です。

訪問当初は認知症のみならず脳血管疾患や神経難病が多い傾向にありましたが、この数年がんの占める割合が多くなり、※疼痛緩和など在宅ホスピスの役割を担うことも増えているのが現状です。また悪性良性疾患に関わらず、自宅での看取りを希望されるご家族が増え、訪問看護師やケアマネジャーの協力のもと今まで3名の看取りをさせていただきました。

(※心身の痛みを和らげ最期まで自分らしく暮らせるように支援すること)



(2021年3月現在)

10年間はあっという間でした。やっと出かけていく医療の必要性が周知されてきたことに安堵しています。さらに高齢化が進む斜里町にとって、地域完結型医療を遂行するためにもこれからは、ご家族はもとより、医療のみならず、介護、福祉のご協力により多職種で患者さんを診ていくシステムの一つとして訪問診療をさらに発展させていきたいと思ひます。

これからも宜しくお願い致します。  
(訪問診療スタッフ一同)

## 外来の診療体制が変わりました

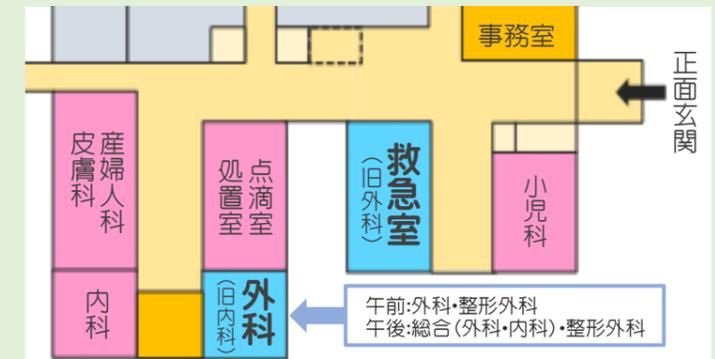
今年の4月から、午前中は外科・内科に分かれた従来通りの診療ですが、午後からは外科外来で外科・内科を総合的に診療しています。

(毎月曜日に2~3回、合地医師の診療を行います。診療対象者は、病状などから合地医師の診療が必要な方にのみ制限しております。このため、対象者以外の診療予約は現在受け付けておりませんのでご了承下さい。)

		月	火	水	木	金
内科	午前	合地(月2~3回) または 森(秀)	宮地	森(秀)	宮地	森(秀)
	午後	合地(月2~3回) ※合地のみ午後あり	休診	休診	休診	休診
外科	午前	第1・3・5 土田(外科) 第2・4 森(雅)(整形)	菊一(外科)	菊一(外科)	整形	土田(外科)
	午後	第1・3・5 土田(総合) 第2・4 森(雅)(整形)	菊一(総合)	菊一(総合)	土田(総合)	土田(総合)

## 外科外来の場所が変わりました

今年の4月から、外科外来は内科外来側(旧内科第1診察室)へ移動しました。今までの外科外来の場所は救急室(救急車の受け入れ室)に変わっていますので、受診の際はお間違えのないようご注意ください。



# 産婦人科外来 担当医師からみなさんへ

みなさんに安心して受診していただくために、旭川医科大学と連携を図り、現在、旭川医科大学産婦人科の医師2名が当院の診療にあたっています。今回はその医師2名からメッセージをいただきました。

## 産婦人科外来診療日

●隔週で2日ずつ(毎月4日間)  
※当院または当院HP、広報しゃりをご確認ください



次に、妊婦健診、子宮がん検診、子宮頸がん予防ワクチンについて少し説明します。

### ●妊婦健診に関して

34週頃までの妊婦健診をしています。遠方の施設に通院せずに妊婦健診できる環境を整えていますので、是非、御利用ください。

### ●子宮がん検診に関して

斜里町の検診事業としての検診が可能です。検診受診を希望される方は、病院、またはばると21にご相談ください。



### ●子宮頸がん予防ワクチンに関して

ご存じの方も増えてと思いますが、中学1年生から高校1年生の女子は、定期接種として無料接種できます。(世界では、接種した方において、子宮頸がんの発症が減少している報告が多数あり、日本で再度、接種者が増えることが望まれます。)

また、本年3月より、子宮頸がん予防の範囲が広がったワクチン発売され、国保病院でも接種ができます。このワクチンは、現時点では自費診療になっています。



外来診療日や外来時間に関しては、斜里国保病院に直接伺っていただくか、広報しゃりをご覧ください。ただけましたら幸いです。

斜里町の女性の健康を守るために頑張って参ります。今後ともよろしくお願いたします。

## 産婦人科外来診療について

斜里国保病院産婦人科で勤務しています加藤育民(やすひと)です。

斜里町の皆さんに国保病院の産婦人科外来診療について、本紙面を利用しお伝えさせていただきます。



旭川医科大学  
産婦人科講座  
教授 加藤 育民

## 当院産婦人科外来の診療内容

### 産科

●34週までの妊婦健診(分娩の取り扱いなし)

### 婦人科

- 子宮がん検診
- 卵巣腫瘍の検査
- 子宮筋腫の経過観察
- 子宮頸がんワクチン
- 過多月経の相談と治療
- ピルの処方
- 子宮脱治療
- 月経困難
- 更年期障害
- 不妊症の相談と治療(当院でできる範囲の治療)

## 産婦人科外来を担当するにあたって

斜里町の皆さん、はじめまして。私は旭川医科大学産婦人科の中西研太郎と申します。令和3年1月から斜里町国民健康保険病院で、月に1回、産婦人科外来を担当させていただいています。

北見市出身で、妻と6歳と2歳の子供がいます。見た目から研修医に間違えられることもあります。医師になって12年目となります。

私は主に周産期(産科)医療が専門で、2017年から2年間半、大阪母子医療センターで産科医療を勉強してきました。旭川医科大学に戻ってからも産科を専門として働いています。



旭川医科大学 産婦人科  
中西 研太郎

斜里国保病院産婦人科は、平成19年まで常勤医師が勤務し、分娩対応施設として開設していました。平成16年頃の年間分娩数は、40件ほどで1人の常勤医師が対応していました。私が、医師として働き始めた(平成4年)頃は、1人の常勤医師で分娩に対応している施設が多く、旭川医科大学産婦人科講座の関連病院として、斜里国保病院、美幌国保病院、長沼町立病院、栗山赤十字病院など多数ありました。周産期医療の安全性が叫ばれる中、旭川医科大学産婦人科講座では、産婦人科医師1名での分娩対応施設をできるだけ複数医師で行うために集約化を順次進めて参りました。そのことから、分娩数が減少していた斜里国保病院は、常勤医師1名体制であったこともあり、平成17年に分娩対応を中止しました。平成19年まで常勤医師が常駐して妊婦健診や婦人科診察を行っていましたが、その後は非常勤体制になり、月2回(4日間)の外来診療を現在も開設しています。

私は、平成10年以降、常勤医師の代診として年に数回ですが、斜里国保病院診療に携わり分娩対応した経験もあります。平成14年から17年までのアメリカ留学期間を除き、それ以降は、前教授の千石一雄先生と共に外来診療に携わっております。昨年3月に千石先生が大学勤務を退官され、本年1月より、千石先生に代わって産科分野専門である中西先生が担当しております。

外来診療は月4日間ですが、妊婦健診、がん検診、子宮頸がん予防ワクチン接種、月経不順・月経困難症治療、月経移動、不妊症、更年期障害、子宮脱など分娩以外の全ての診療を行っていますので、産婦人科疾患で困られている方は、是非、外来受診していただければ幸いです。

皆さんご存知の通り、斜里町国民健康保険病院では出産することができないため、妊娠初期から妊娠32週(妊娠8~9か月)頃までの妊婦さんの健診を行っています。妊娠34週以降は、出産することができる病院(近郊では、網走厚生病院、中村記念愛成病院、北見赤十字病院など)に紹介しています。

妊婦さんにとっては、長距離を移動するだけでも体に負担がかかりますので、妊娠34週に入るまでは、ぜひ斜里町国民健康保険病院の産婦人科外来で妊婦健診を受けることをお勧めします。

また、この度、新たな取り組みとして、胎児スクリーニング検査を始めています。胎児スクリーニング検査とは、超音波検査で赤ちゃんの形の異常が無いかを確認する検査のことです。具体的には、赤ちゃんの脳や背骨、心臓、肺、腎臓、膀胱、手足などに異常が無いかをみています。

通常の妊婦健診では、赤ちゃんの体重と羊水量の計測を行うのみですが、妊娠20週(妊娠6か月)頃

と30週(妊娠8か月)頃の妊婦健診の際には時間をかけて赤ちゃんを観察させていただきます。

胎児スクリーニング検査が、斜里町国民健康保険病院に通院している妊婦さんの安心感につながれば幸いです。



最後に、私と交互に外来を担当しています加藤育民教授は更年期障害を中心とした婦人科が専門で、婦人科疾患で受診される方も沢山います。私も産婦人科医師として、婦人科診療にも力を入れていきたいと思っています。月経に関するトラブルや更年期障害の諸症状、なかなか赤ちゃんが出来ないなど、婦人科に関するお悩みがあれば、ぜひ産婦人科外来を受診していただければと思います。皆さんのお役に立てるよう頑張っていきますので、ぜひ今後ともよろしくお願いたします。

## 斜里町民の 健康を願って

~令和3年4月で退職しました~



内科医長 近藤 統

2年間と決して長くない期間でしたが、本当に皆様にお世話になりました。どうもありがとうございました。

当院では内科医として勤務させていただいておりましたが、この内科の診療では、重大な後遺症もしくは致命的な結果をもたらす疾患の発症を未然に防ぐための治療がかなりの部分を占めております。

血圧やコレステロールの薬を定期的に処方しているのは、不快な症状を軽減するためではなく、動脈の劣化現象である動脈硬化の進行を遅くし、全身の様々な臓器の劣化を減らすことを目的としています。具体的には、心筋梗塞や脳卒中、腎不全等、一旦発症するとその後の人生を大きく変えてしまう病気を予防しています。

糖尿病も血糖値が高いからといって、よっぽど高い状態が何日も持続しない限りほとんど困った症状は出現しません。しかし、血糖値が高い状態を許容し放置していると、大きく動脈硬化が進行し、将来の大きな病気につながります。つまり、糖尿病の治療の目的も何らかの症状に対して投薬しているのではなく、動脈硬化の進行で起こりうる将来の大きな病気を予防することにあります。

また、当院では上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)も担当させていただいておりましたが、この検査の大きな意義の一つが、胃へのピロリ菌感染の有無を評価することにあります。長期間のピロリ菌感染により、胃に持続的な炎症が生じ癌や潰瘍の発生につながります(日本ではピロリ菌感染がほぼ全ての胃癌の原因で、ピロリ菌に感染していない方は胃癌になることは基本的にありません)。ピロリ菌の除菌により、以降の胃癌のリスクを半分程度に下げることが示されています。つまり、ピロリ菌除菌も胃癌を予防するために行っていると言えます。

このように内科では予防的な目的で通院していただくことが多いわけですが、その意味合いを十分にご理解いただかないと通院も長続きしません。実際に一度は大きな病気になってしまった後、その再発を防ぐための通院は多くの方がしっかり継続してくれます。しかし、大きな病気をせずに元気に暮らしてきた方が健診や人間ドックで生活習慣病を指摘され内科外来を受診された場合、年齢が若いことも多く、定期通院・内服等の必要性を納得いただくことが難しいことが少なくありません。しかし、何らかの介入(内服治療や生活習慣の改善など)により、確実に将来の大きな病気のリスクを減らすことができます。

自分が内科診療を担当するに当たり、大きな病気を未然に防ぐことが非常に重要である旨をご説明させていただくことを心掛けてきました。斜里から少しでも生活習慣病で苦しむ人を減らしたいとの思いを強く持っておりました。おおらかで、思いやりの大きな心を持った斜里の皆様のこと、斜里の地も本当に大好きです。しかし、初めの一步を踏み出したくらいの短期間ではありますが、この度、2年間で斜里国保病院での勤務を終了することになりました。斜里を一旦離れますが、斜里の皆様の健康を心から願っております。斜里の大きな空の下、いろいろ忙しく過ごしておられる方も多いと思いますが、ご自身の将来の健康について、少しだけ考え、少しだけ時間を作りケアしていただけると嬉しく思います。

本当に国保病院でお仕事をさせていただいてありがとうございました！

令和  
3年度

# 新入職員紹介



内科  
医師

みやじ たかし  
宮地 隆史

【出身地】 福岡県  
【趣味】 釣り  
アウトドア  
【町民の皆さんへ】  
いつまでも安心して暮らせる  
町づくりをお手伝いしていけれ  
ばと思っています。  
よろしくお願ひします。



看護  
師

たがの りさ  
田谷野 梨沙

【出身地】 斜里町  
【趣味】 映画鑑賞  
ゲーム 手芸など  
【町民の皆さんへ】  
生まれ育った斜里町で  
看護師として働くことができ、  
とても嬉しく思います。  
毎日、笑顔で頑張ります。



医事  
係

おきしま あやか  
沖島 彩伽

【出身地】 北見市  
【趣味】 読書  
旅行  
【町民の皆さんへ】  
病院に勤めるのは初めて  
ですが、精一杯頑張ります。  
よろしくお願ひいたします。

## 退職者の紹介

～石岡先生からコメントをいただきました～



### 退職のごあいさつ 内科医長 石岡 春彦

私は本年3月をもって斜里町国保病院での勤務を終えました。斜里岳の凜々しい姿を仰ぎながら診療に従事したこの3年間は本当に楽しく、充実したものでした。

プライマリケアから専門診療まで幅広く対応する総合医としての役割は、疾患から地域社会まで包括的に診るかかりつけ医としての視点を教えてくれました。

診療に加えて、病院の感染管理や初期研修医への教育にも携わる機会をいただきました。未曾有の新型コロナウイルス感染症のパンデミックに対しては手探りで対応を模索しました。自身が地域の医療や後進の育成に僅かでも貢献できたとすればこれに勝る喜びはありません。

このような日々を積み重ねることができたのも、合地前院長をはじめ病院の全てのスタッフ、患者さんやご家族の方々、地域の全ての方々のご支援があったからこそと思います。この場をお借りして皆様に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。



前院長  
合地 研吾

この春退職となりました。  
皆様には  
大変お世話になり、  
本当に  
ありがとうございました。



内科医長  
近藤 統



内科医長  
石岡 春彦



主任看護師  
横山 敦子

## 新型コロナ ワクチン接種



4月21日(水)から、当院職員の新型コロナワクチン接種が始まりました。

みなさんも気を緩めず、新型コロナウイルス感染拡大対策を続けていきましょう。お身体を大切に。

## 医療従事者の新型コロナ予防接種が始まりました！



問診して…



上腕に接種します



院長も予防接種1回目終了

斜里町国民健康保険病院

☎0152-23-2102

〒099-4117 北海道斜里郡斜里町青葉町41番地

この広報誌は当院のホームページでも  
ご覧いただけます

<http://www.shari-kokuho.jp/>

